

鈴木商店調査書「株式会社神戸製鋼所」（原書 P43～48）

神戸市 <sup>わきのほま</sup>脇濱一丁目三十一番地

設立 明治四十四年七月

目的 <sup>ちゅうこう たんこう</sup> 鑄鋼、鍛鋼、船舶及び工業、鉾山用諸機械類並に兵器の製造、艦艇及船舶の建造、  
<sup>そのた</sup> 其他付屬事業

資本 金五百萬円也 払込金 参百貳拾萬円也

投資額 金五百萬円内外

重役の氏名左の如し

取締役社長 鈴木岩次郎（原文ママ。正しくは“岩治郎”）

専務取締役 田宮嘉右エ門（原文ママ。正しくは“嘉右衛門”）

取締役 <sup>よりおか</sup>依岡省輔 取締役 森田葆光

監査役 伯爵 吉井幸蔵 監査役 柳田富士松

会社の沿革及現況

同社は元東京の小林清一郎氏の経営たりしを明治三十八年、鈴木商店之を譲り受け、<sup>じらい</sup>尔来同店製鋼部として経営し来り明治四十四年、現組織に変更し資本金を壹百四拾萬円とし、大正六年三月更に五百萬円に増資せしものにして、同店の経営に移りし以来非常の苦心と努力により漸次好況を呈し来れり。

製品は主として船体、汽機、<sup>きかん</sup>汽罐、艦船用、工業用、鉾山用諸機械、兵器、艦艇、船舶の建造にして、近年世上に重要視せらるるに至れり。

大正三年、欧州戦乱突発以来鋼材、機械類の輸入困難となるや需要激増し、昼夜兼行にて日も尚足らざる盛況を呈しつつあり、業況斯の如くなるを以て従来の設備にては到底一般の需要に応ずる能<sup>あた</sup>はざるより、茲に大拡張を為すこととなり、更に工場数百坪を新築し、溶解炉、灼熱炉、クレーン、ローリングミル等の各機械を増設し、丸角鋼棒及セクションものを<sup>ふじつ</sup>不日市場に供給する設備を完成せり。

尚、三百キロ変電所、分析所等の新築及第七工場を増築し、海面埋立工事は六年上半期末には全工事の七分二厘成功し、着々進行しつつあり。

尚、同所は<sup>かお</sup>予て造船計画に着手し、<sup>わきのほま</sup>脇濱埋立地に於て一萬屯級以下、大小五個の船台を設備し、近々完成の見込なり。又、本邦紡績業の著しき発展に伴ひ<sup>ぼうき</sup>紡機の需要多数なるも、海外注文の困難なる現状に鑑み、大々的製作を為さん計画を<sup>た かほんらい</sup>樹て過般来調査中なりしが、<sup>いよいよ</sup>愈々製作にに着手せる模様なり。以て先見的施設に努力せるを見るべし。

如斯、同所は絶へず時代の要求に投すべき計画に怠らざる結果、多々益々注文激増し、既に明年中の作業工程を有し、加ふるに船台の新設備と二千屯水圧鍛造機の完成を告ぐるの暁は生産力著しく増大し、従て営業状態は前途一層良好となるに至るべし。

今六年度上半期決算に於て壹百五十参萬余円の純益を挙げ、払込資本に対し年拾割弱の好成績を挙げ居れり。以て、其一斑を推知し得べし。

蓋し、同所は鈴木商店分身会社中の重要事業にして総投資額約壹千萬円に達し、将来益々拡大すべき計画なり。

因みに、大正六年度上半期決算左の通り

(単位：円)

資 産 之 部		負 債 之 部	
未払込株金	1,800,000.00	株金	5,000,000.00
土地家屋	926,181.53	法定積立金	97,500.00
機械器具備品	1,573,706.82	別途積立金	80,500.00
倉庫品	1,363,607.22	減価償却積立金	366,500.00
半製品	1,749,259.26	所員機工 同上	65,491.95
埋立工事仮払金	607,178.42	仮受金	47,850.75
仮出金	1,224,581.22	掛買金	108,131.79
掛売金	595,954.67	支払手形	4,507,839.23
受取手形	1,369,284.61	前期繰越金	18,659.58
有価証券	10,551.75	当期利益金	1,535,038.34
振替貯金	2,806.64		
当座預金	601,573.95		
正 貨	2,825.55		
合 計	11,827,511.64	合 計	11,827,511.64

利益金之分配案

金 百五拾参萬五千参拾八円参拾四銭 当期利益金  
 〃 壹萬八千六百五拾九円五拾八銭 前期繰越金  
 合計 金 壹百五拾五萬参千六百九拾七円九拾貳銭

内訳

金 八拾八萬円也 所有物減価償却積立金  
 金 五萬円也 法定積立金  
 金 貳萬円也 別途積立金

金 拾壹萬五千円也	普通株主配当金 (年一割)
金 四拾六萬円也	特別 同 (年四割)
金 壹萬円也	所員慰勞金
金 壹萬八千六百九拾七円九十貳錢也	後期繰越金